

平成 26 年 6 月 24 日

鹿児島大学病院で内視鏡検査や手術をお受けになった患者さんへ
(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、過去に消化器・乳腺甲状腺外科学で内視鏡検査 や手術をお受けになった患者さんで、診断や治療のために採取された組織や細胞 の検体の余剰分を学術研究、教育に使用することについて同意をいただいている方々の検体を分析することによって行います。このような研究においては、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針(平成 20 年 7 月 31 日全部改正、平成 21 年 4 月 1 日施行)」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、下記の【問い合わせ先】へご照会ください。

【研究課題名】

手術あるいは検査による切除標本の一部を用いた病理学的研究

【研究機関】

鹿児島大学病院 消化器乳腺甲状腺外科

【研究責任者】 鹿児島大学病院 消化器乳腺甲状腺外科
教授 夏越祥次

【研究の目的】 種々の腫瘍組織における抗原の異常発現や遺伝子発現の異常が悪性度に関連しており、腫瘍以外の疾病であっても抗原や遺伝子発現の異常が疾患の発生に関連することが示唆されています。これらに関する研究により、疾病の発生機序や、その進展機序を明らかにすることが本研究の目的です。

【研究の方法】 通常診療において過去に採取された試料及び診療情報(既存資料)を含めて、研究パラフィンブロックや凍結組織などの形で保存された病理検体を、匿名化後、免疫組織学的ならびに分子病理学的方法で検索すると共に、病理検体試料から DNA または RNA を抽出し、ゲノム又は遺伝子の変異を対象とする研究、いわゆる体細胞変異を解析します。また、それらの検索結果を予後等の臨床病理学的因子と比較検討します。病理検査のための内視鏡および手術により摘出された組織で、すでに病理検査が済んだ後の余剰分検体を使用されます。

(診断や治療のために採取された検体の余剰分を使用するため、本研究による患者さん

への副作用や不利益はありません。)

【個人情報の取り扱い】

使用する検体からは、お名前や住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は使用しません。

【補足説明】

なお、この説明文書をお読みになり、検体を提供したくない方がいらっしゃいましたら、お手数ですが、私達担当医師（教授 夏越祥次、特任教授 上野真一、准教授 吉中平次）までご連絡くださるようお願いいたします。

この研究に協力しないことによって、当院での診断・治療において対象となる患者さんが不利益を被ることは一切ありません。

また、本研究は、国の倫理指針（厚生労働省「臨床研究に関する倫理指針」）に沿って計画され、当院の臨床研究倫理委員会で倫理的・科学的妥当性について審査の上、承認されたものであることを申し添えます。

【問い合わせ先】

消化器センター 教授 夏越祥次 099-275-5361